

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1959
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.52, No.10 (1959. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19591001--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19591001--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

慶應義塾經濟学会

十月号

現代社会における大企業……………	青沼吉松(一)
余暇・所得選好場と変位の計測……………	小尾恵一郎(二六)
論説	
ドイツ社会運動史	
にかんする最近の資料(その二)……………	飯田鼎(三三)
——社会主義鎮圧法の時期におけるドイツ社会民主党	
の闘争——帝国委員会の活動——について——	
一七世紀末ニュー・イングランド	
の一タウンについて……………	中村勝己(四六)
——サファイールド(マサチューセッツ)の場合——	
マズグレーヴの予算決定の綜合理論……………	古田精司(五〇)
ウィリアム・ゴドウィン研究文献(一)……………	白井厚(七〇)
デイーンエル・ポエーム論争(二)……………	持丸悦朗(八二)
書評及び紹介	
経済学関係文献目録	

第五十二号

第十号

昭和三十四年九月二十四日  
昭和三十五年十月十三日  
発行(毎月)第一、九〇三号  
第三種郵便物認可

昭和三十五年九月二十四日  
昭和三十四年九月二十四日  
発行(毎月)第一、九〇三号  
第三種郵便物認可

三田学会雑誌

昭和三十四年九月号

定価 金九〇円 (送料別)

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 52, No. 9

September, 1959

## CONTENTS

New Stage of Japan's Economic Cooperation with South-east Asian Countries .....	N. Yamamoto (1)	Page
On Economic Surplus and Economic Growth.....	A. Ohnishi (12)	
Democratic Socialism and the Theory of Increasing Misery .....	N. Maruo (30)	
The Disputation of H. Dietzel and E. v. Böhm-Bawerk(1) .....	E. Mochimaru (44)	

## Reviews and Notes

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
(The Keio Economic Society)  
Editorial communications to be sent to  
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,  
Keio-Gijuku University,  
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
Price 90 yen

書評及び紹介

真実 一男 著

『機械と失業——リカアドゥ機械論研究——』……………井村喜代子(五)

T・シトフスキー著

『経済理論と西欧経済の統合』……………原 豊(六)

現代社会における大企業

青 沼 吉 松

はしがき

「第一次世界大戦当時には、……最も産業化されていた諸国においてさえ、産業の代表的単位は、家族が所有し、家族が経営している中規模の工場であり、五百人以下の労働者を雇っているにすぎなかった。」ところが、大量生産の原則が産業に適用されるようになると、企業規模は飛躍的に大きくなった。それに伴って、企業運営に必要な固定資本量が増大した結果、資本調達の便宜からして、株式会社制度が発展した。

「株式会社制度(corporate system)は、私的又は封鎖的会社(本質的に違った形態たる準公共的会社(quasi-public corporation))にとつてかわられた時のみ出現する。」「準公共的会社はしばしば投資大衆(Investing public)と呼ばれる投資者集団から資本の供給を受ける。」これからして、企業は新しい性質、即ち多数所有権(multiple ownership)という性質を付与される。「この形態にお

現代社会における大企業

いては、所有者が多数になるといふことによって、所有権と支配との分離(separation of ownership and control)が起っている。」この分離は、生産手段に対する物理的支配力がこの財産から生み出される利得を受け取る法律的権利から分離されるということを意味する。ここで、問題とされている株式会社は、見せかけだけの、実質的には、個人企業のようなものではなく、その株式が公開市場で売買されるような大企業を指しているのは、いうまでもない。

「物理的資産を支配するという意味での経済力は、求心力に従って、少数の会社経営者(corporate management)の手に益々集中される傾向がある。同時に、利得所有権(beneficial ownership)は遠心的であり、分割・再分割されて、いよいよ小さな単位に分れ、人から人へと自由に移転する傾向がある。換言すると、所有権は継続的に益々分散されるようになるのに、以前、それと結合していた権力はいよいよ集中されるに至る。このような次第で、会社制度はより堅固に樹立される。」株式会社制度が発展し、確立された